



千八百七十八年八月二十日刊行
横濱「ヂヤツパン」ガゼツト
新聞抄譯

横濱町會所ノ事
法外ノ賦稅ヲ論ス



3913



414
A3077



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

鬼頭啓二郎 譯

十八百七十八年八月三十日刊行横濱予ヤツパンガゼツ
新聞社説譯

法外ノ賦税ヲ論ス

吾輩ニ本社本月二十七日刊行ノ「ガゼツ」新聞中一論ヲ登録シ
テ以テ我外人社會ヲレテ意ヲ左ノ二事ニ注カレメタリ(其一)当
横濱ニ町會所ト稱スル公館ノ現存スル「其二」凡ソ諸物品トモ
外国人ヨリ買入レ横濱ノ地ヲ持出ルモノニハ然テ税ヲ賦課ス
ル「是」ナリ

然ルニ尔来尚ホ又探訪ヲ遂ケタルニ果シテ前キニ論セシカ如
ク此舉實際施行セラレ、由ニテ凡ソ当横濱ヨリ持出ル諸物品
ヨリ税ヲ取立ル「ア」アル毫モ疑ナキニ似タリ蓋シ斯ノ如キ税
ヲ賦課スルヨリシテ外國貿易ノ利害得失ニ關係スル所少ナ

大隈

ラス突ニ斯ノ如キハ外国貿易上ニ取リ大ナル災害ヲ来スモノ
タリ去レハ此賦税ノ舉連綿永續スルカ為メニ特ニ災害ヲ被ム
ル輩ニ取リテハ此舉コソ深思万考スヘキナリトス
サテ又斯ク町會所ニテ取立ル税ノ割合ハ幾許ナルカ吾曹之ヲ
知ラスト至レ内国高買ヨリ之ヲ取立ルノ割合ハ三分若クハ五
分ノ多キニ至ラサルヘキハ明瞭ナリ
是故ニ前日初メテ此事ニ付テ論弁セシ時ニ當リ豫メ開陳シ置
タルカ如ク暫ラク其割合ヲ五厘若クハ三厘餘ト定ムルアルモ
猶ホ且ツ法外有害ノ賦税タルヲ免レヌ蓋シ斯ノ如キ法外有害
ノ税ハ直チニ廢棄セサルヘカラサルモノナリ
蓋シ之ヲ廢棄セシムルニハ先ツ此事件ヲ當港駐劄ナル各領事
中重立タル二三ツ領事ヘ申立ルヲ以テ第一着ナリトス其然ル
所以ノモノハ他ナシ領事ハ職トシテ此件ヲ查問推究シ以テ此

制ノ施行ヲ拒絕シ且ツ町會所ニテ此税ヲ取立テ何ホノ用途
ニ供スル所以オヲ詳知スルヲ要スレハナリ若シ又全ク之ヲ廢
棄セサルモ宜シク法ヲ設ケテ以テ改正変更セスンハアルベカ
ラサレハナリ
当港毎年ノ輸入額横濱税関ニテ輸入税徴収ノ際取定ムル價額
ハ平均大約貳千万ドルナリ尤モ此貳千万ドル此ノ金額
ハ税則中從價税ノ條款アルカ為メニ諸物價トモ大ニ其定價以
内ニ居ルモノナリトス
若シ此貳千万ドル此ノ外ニ海關稅及其他ノ諸雜費ノ分ヲ
合シ且ツ從價税ヨリ生スル差違格下ニ果商稅関ニ来リ高品ヲ
輸入スル其品物ノ價ヲ同ナリト申立ルトモ稅関之ヲ不相
當ト見做ス其精密ニ其品物ヲ照檢シ若シ同余ノ價アルモ
稅額ヲ追課スル後ナシケルヲ加ヘテ割ト見做シ以テ之ヲ此
貳千万ドルニ加算スルハ輸入物品ノ賣價貳千貳百万ドル

ルラルトナルナリ依テ此貳千貳百萬ドルニ付五厘ツ、ノ
税ヲ課スレハ實ニ拾壹万ドルラルトナルモノトス
此外尚ホ又販賣ノ用ニ供セシカ為ノ横濱一持込ミタル諸物品
ヘモ税ヲ賦課スルモノアリ然レモ吾曹ハ目今ノ処ニテハ其税
ノ収額ニ関スルノ外ハ何ボノ論ヲモ吐露スルナリ
凡ソ此税ヲ賦課セラルル輸出入諸物品ノ総價ハ實ニ四千万ド
ルラルト多キニ居ルト仮定スルハ之ニ五厘ツ、ノ税ヲ課ス
レハ貳十萬ドルラルト收入アリ若シ之ニ僅々三厘餘ツ、ノ税
ヲ課スルモ尚ホ拾三萬三千三百三拾三ドルラルト收入アルナ
リ若シ又減少シテ千分ノ三ツ、トナスモ尚ホ且ツ毎年町會所
ニテ收入スル金額ハ輸入品ヨリ六万六千ドルラルト輸出品ヨリ
五万四千ドルラルト多キニ及ボスベシ
去レハ前号既ニ開陳セシカ如ク諸役負ノ給料其他附属ノ諸雜

費一切仕拂ノ上尚ホ毎年拾万ドル餘ノ残額アリトス是レ外國貿
易ニ直接ニ賦課セシ税金ノ収額ニシテ則チ町會所ノ隨意ニ使
用スル所トナリ或ハ又吾人ノ知ラサル二三輩ノ使用スルトコ
ロニ過キサルナリ
仮令ヒ当港駐劄ナル外人社會ノ如キハ今日町會所ノ事ヲ處ス
ルノ推理如何ニ付テ毫モ知ラサルカ如ク亦此金額ハ何ボノ用
途ニ供スルモノナルカ其如何ヲ知ラサルノ輩ナリト雖モ今ヤ
此ボノ諸事ニ就テ嚴密ニ調査ヲ要求スルノ時至レリ豈ニ之レ
ヲ忽ニスベケンヤ神奈川縣令野村靖カ所管地ノ費用年々三万
円ドセラレ此ノ不足ヲ生スル旨ヲ明示セシカ如キ是レ第一ニ嚴
密ノ調査ヲ遂スルハアルベカラザルモノナリ
右ニ論スル所ノ収税ハ法外ノモノタルヲ信スルニ於テハ先
ツ以テ日本ト海外諸國ノ間ニ締結セル條約ヲ參照スルヲコソ

緊要ナルナラン

夫レ千八百五十八年八月二十六日江戸ニ於テ調印相済タル日本ト大英國トノ條約昏中第十四條ニ載スル所ハ即テ左ノゴト

シ
貌利太尼亜人開キタル各港ニ諸品物ヲ輸入シ賣拂又ハ買入
レ輸出スル事自由ナルヘシ

制禁外ノ品物規定ノ運上納済ノ上ハ其他ノ運上ヲ拂フ事ナ
シ

今此條約面ニ就テ觀レハ如何ナル解明ヲ此條款ニ下スアルモ
當時條約ヲ締結セシ全權公使ノ意中ニハ日本商人ト外商トノ
間ニ於テ貿易取引ノ際毫モ之ヲ妨クルナク全ク自由ノ交際ヲ
許サレハカヲカサルト苟モ日本商人ハ密稅ヲ賦課スルガノ
トアルベカラサルトテ慮リシヤ明了ナリ蓋シ苟モ日本商人ハ

密稅ニ賦課スルガノ奉アルハ其事タル仮令七間接ニ出テ接
近ナラサルノ方法ヲ以テ施行スルアルト雖モ商人タルノ關係
上ニ於テ有害ノモノナレバナリ

蓋シ我英國政府ハ尚ホ一層精細ニ我英國臣民ノ權利ヲ確定ス
ルカ為メ條約昏中第十四條ニ於テ左ノ明文ヲ掲載セリ云ク

輸入ノ荷物定例ノ運上拂済ノ上ハ日本人ヨリ回中ニ輸送ス
ル共別ニ運上ヲ取立ル事ナシ

千八百六十二年六月六日調印ノ倫敦約定ニ依レハ我女帝陛下
ノ政府ハ當時改正ヲ加ヘサル諸條款ハ悉皆寸毫ノ違ヒナク實
施実行スヘキヲ希望スル旨ノ明文アリ其條約昏中一款ヲ設
テ以テ運上所ノ役人及ヒ他ノ士人ノ中賣ヲ取ル存意アリテ彼
是事ニ付キ拒ム事ヲ禁止スベキ旨ヲ確定セリ
○印、分條約文、
○一、ル、下、イ、ル、ジ、ン、氏、締、結、ノ、條、約、批、准、以、來、既、ニ、二、十、年、ノ、星、霜、ヲ

経且ツ是レ迄数年、久レキ衆皆日本主治者カ能ク約ヲ守リ信
ヲ固フスルコトニ付テ頗フル信用ヲ懐キシカ故ニ貿易上ニ関ス
ル條規ノ実行如何ヲ決シテ嚴密ニ監視セサリレカ為メニ多少
弛緩ノ弊ヲ来セシテアルモ是レ常勢ノ然ラシムル所ナリ尤モ
弛緩ノ弊ボヲ来スナク一日モ之ヲ忽ニセシテ能ク遵守履行
セサルベカラサル理由アルニアラサレハ漫リニ督責ヲ試スレ
テ適宜ノ用指ヲ加ヘサルベカラズ
今ヲ去ルコト僅ニ九ケ年以内ニ締結セシ條約ノ明文ニ背キナカラ
ズ
猿リニ允旨ノ弁解ヲ設ケ巧ニ責ヲ免ントスルカ如キハ免ルベ
カラサルコトナラシサレハ千八百六十九年十月十八日調印ノ澳
太利、洪噶利國ノ條約ニ就テ觀察ヲ下スニ當町會所ノ所置タル
此條約昏莽十二章中初款ノ精神ニ違背スル而已ナラス高ナ且
ツ其文字ヲ犯セシ所アリ其十二章ノ初款ニ云ク

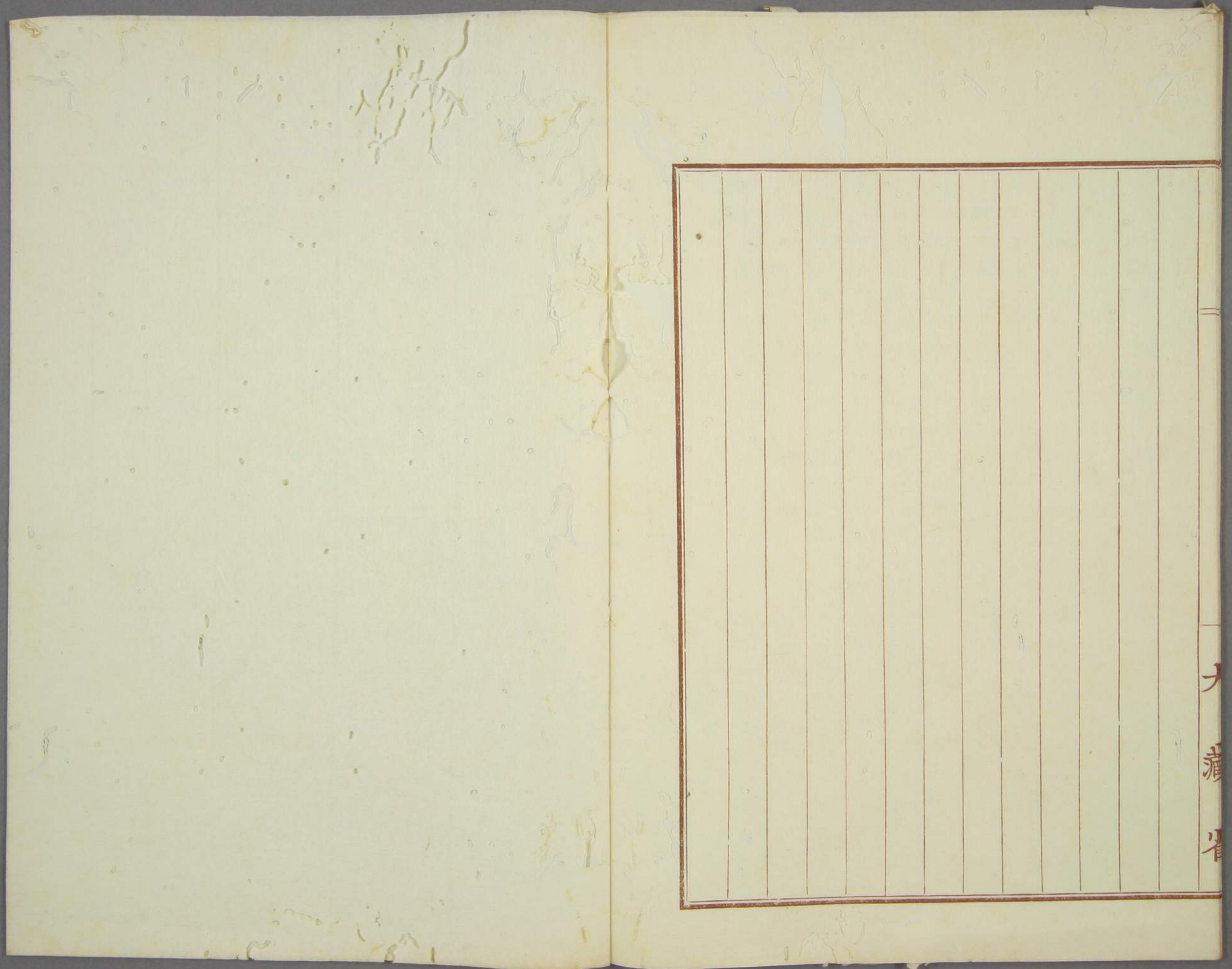
澳太利及ヒ洪噶利ノ人民日本開港場内ニ輸入シ此條約ニ定
タル高税納濟ノ諸貨物ハ日本人又ハ澳太利及ヒ洪噶利人ニ
拘ハラス其荷主ヨリ日本國ノ諸部ニ輸送セシメ得ヘシ勿論
之ニ租税或ハ道路ノ運上ト何等ノ税ヲモ拂フ事ナカルベシ
此日本澳太利トノ條約ハ現今ノ日本外務卿寺島藤宗則ノ調印
スル所ニ係リ是レ迄日本ト外國トノ間ニ締結セシ條約中最後
ノモノナルカ故ニ此兩國間ノ條約コソ日本ト外國トノ間ニ於
ケル貿易ノ關係ヲ明示スルモノト信セバカラズ蓋シ前昏
引用セシ第十二章ノ條款ハ全ク言詞ノ意義ト反對ノ譯解ヲナ
レ得ルニアラサレハ前以テ税則通ノ税ヲ拂込ミタル輸入品ヲ
日本國內ノ製造地方若クハ消費ノ土地ニ轉送スルトモ其品物
ニ分重ノ租税或ハ道路ノ運上ト何等ノ税ヲモ賦課レ能ハサル

モノナリ尤モ此後、付前以テ協議ヲ遂ケ條約國ノ同意アルニ
於テハ固ヨリ随意ニ徵收スルヲ得、レト虫氏之カ許諾ヲ待カ
レハ分厘ノ租税ヲモ課スルヲ得ス
斯ノ如ク論シ来レハ諾リ本論ノ結局ハ左ノ疑問ニ至テ止ム而
己町會所ニ於テハ一旦税則通りノ税ヲ拂スレタル物品ニ租税
若クハ道路ノ運上オヲ賦課シナス乎ノ一問是レナリ
此疑問ニ答テ(我曹カ必ラスサモアラ子バナラヌト信スルカ如
ク)然リト云ハ、高ホ説明ヲ請フヘキモノニケ條アリ即チ(其一
町會所ノ所置ハ條約面ニ違背セシ所ナキヤ(其二)町會所ノ所置
今日ノ如クナルカ為メニ貿易上ニ及ホス所ノ防碍幾許ナルヤ
ノ二問是レナリ
以上三問ノ中前二問ハ必ラス当路ノ有司輩深思万考セシムハ
アルベカラサルモノナリ而シテ当路ノ有司輩此ノ二問ニ應答

スルナラハ今日世人カ不平ヲ訴ル所ノ此賦課法アルカ為ニ貿
易上ニ災害ヲ波及スル所以ニ付公明正大ノ理由ヲ以テ確証ヲ
示スハ毫モ難キニアラサルベシ
吾曹新聞記者ハ斯ル大弊害ヲ看破論弁セシヲ以テ今ヤ外人社
會ニ對シ吾曹記者ノ職分ヲ尽グセリ
若シ夫レ此事件タル公然討議スル丈ケノモノナラハ各國ノ領
事殊ニ英國領事ノ如キハ職トシテ其國臣民ノ為メニ貿易上ノ
利害得失ヲ視察シ且ツ貿易條約ノ諸條款トモ違背スルヲナク
正当ニ遵守セラル、ヤ否ヤヲ監視スルハアルヲ以テ今日ノ如
ク日本ト締結セル條約ノ條款公然違背ノ弊害ヲ洗淨センカ為
メ其カノ及フ丈ケ尽カスルアルハ固ヨリ吾曹ノ喋々ヲ俟タ
ズ
然レハ各國領事カ此事件ニ付キ公然討議スルニ先立テ當港ノ

外人社會一同ヨリカ若シクハ其一部分ヨリカ或ハ又現ニ此法
外ノ賦課法ノ為ニ害ヲ被ムリタル一私人ヨリテ此事件ヲ公然出
訴セサルベカラズ其然ル所以ノモノハ他ナレバ令ニ我有用ナ
ル新聞ノ社説ハ衆庶ヲシテ此事件ニ付テ感動セシムルノ力ア
ルニモセヨ唯我社説而已ヲ以テハ公然タル訴訟ヲ起サシムル
ヲ期ス能ハサレハナリ
現ニ横濱駐劄ナル外人ガハ毎年直接ト間接トニ於テ拂フ所ノ
税額實ニ巨大ナリト雖モ尚ホ且神奈川縣令ノ明言スル所ニ依
レハ居留地事務ハ日本政府ニテ毎年三万ドルノ損失
ヲナシテ施行スルナリト
此事タル果シテ實際上然ルアラハ是レ非常ニ不愉快ノコトナ
リ蓋シ何人タリトモ審テ不潔ノ事ニ慣レズ道路ガ修繕整ハ
サルノ地ニ居住セサリシ者ハ皆之ヲ以テ不愉快ノコトナスナ
リ

飯令ニ費用不足ナリト云フモ吾曹未タ曾テ其確証ヲ見ズ唯斯
ノ如キ信レ難キ事ヲ尙祖センカ為メニ審テ引合ニ出セシ証
ハ道路市街諸橋維持ノ費數百ドル止ノ報告ヲ時々出版シテ
世ニ示スノミナレカ故ニ吾曹ハ神奈川縣令カ明言スル所ノ如
キモノ凡百ノ出ルアルモ之レヲ度外ニ置キ決シテ容ルベカラ
サルモノトナスナリ



大清省

